



一步踏み込んだ先にあったもの

鈴木 華子

緑豊かな街並み、フレンドリーな人々、学んだことがない言語に囲まれ、日本から遠い異国の地で、私は1週間を過ごした。参加する前、マレーシアについて調べると、経済成長率はコロナ前は5%前後と堅調に推移している。また、私は初めてイスラム教を国教としている国を訪れた。自分とは全く異なる価値観の下生活する地に行くことは、冒険であり、挑戦であった。

具体的にマレーシアで学んだことを3つ挙げる。1つ目は、多文化共生することの意義だ。マレーシアは多様な人種で構成され、街並みやコミュニケーションはそれぞれの良さが混ざっている。異文化を受容する力も強く、これらの背景には多文化共生があると考察する。2つ目は、日本人として国際協力することの意味だ。現在、日本はマレーシアと一緒に、他国に対しても支援を行なっている。そうやって、国際社会全体で助け合う基盤を作ることこそ、日本人が国際協力をする意味だ。3つ目は、言葉を使わずに、自分の文化を伝え、相手の文化を尊重する方法だ。現地では、ジェスチャーのみでコミュニケーションを取ることがあった。その際に必要なことは、相手を人種や性別などで判別せず、何も予測しないことだ。真っ新たな気持ちで相手を尊重することが重要だ。

今後、私は子どもたちが幸せに暮らせる社会を構築したいと考える。今回得た学びや、幸せとか何か、等の新しい問いも、自分の糧にして、国際社会に還元することを決意する。